

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3年3月26日

事業所名 社会福祉法人至泉会 すこやか園 児童発達支援事業

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・新型コロナウイルス感染防止対策として、例年よりも1部屋に対して少人数で療育ができるよう、部屋を分けるなどの工夫をした。	
	②	職員の配置数は適切である	○		・国の規定している基準以上の職員配置をしている。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・お子さんの特性や理解に合わせて構造化したり、部屋にマークを付ける、スケジュール表を使うなど視覚的に示す工夫をしている。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・新型コロナウイルス感染防止対策として、療育後に使用したもの（ロッカー、椅子、教材等）の消毒を行った。また、療育中も必要に応じて職員やお子さんの手指の消毒を行っている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・職員全体で毎回、療育終了後に、当日の振り返りや次回の内容や配慮点の確認など情報を共有する機会をつくっている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホー	○			

	ムページ等で公開している				
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年に実施をし、改善すべき点について確認、改善しながら業務に取り組んできた。 ・指定管理施設であるため、市からの評価を受けている。 ・外部委員会からなる運営委員会で年 2 回、園の状況を報告したり、評価をいただく機会を設けている。今年度はコロナ禍のため、書面で報告した。 	
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・グループ療育に定期的に専門職の職員が入り、連携して療育を実施する中で、学びあえる機会をつくった。 ・虐待防止セルフチェックリスト、日常点検チェックリスト、ヒヤリはっとなどを活用し、内部で振り返りをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、外部研修、内部研修を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響があり、例年より実施が難しかった。新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、内部でできる工夫を考え、職員の資質向上に努めていく。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・1～2ヶ月に1回程度面談の機会を設け、お子さんの様子を保護者と共有しながらニーズの確認をしている。 ・お子さんの状態や保護者のニーズを職員間で共有、確認し、サービス等利用計画を踏まえた個別支援計画を作成している。 	
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・年長児を中心に、発達検査、知能検査を行なっている。その他、必要に応じて保護者と確認しながら実施している。 	
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・記録用紙のフォーマットに個別支援計画の内容を記載し、個別支援計画を意識して記録をしている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・子どもたち一人ひとりの特性に配慮しながら、経験を積み重ねたり、拡げていけるように工夫している。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	○		・年齢によって頻度は違うが、個別の時間を設け、保護者とお子さんの様子を確認しながら個別支援計画を作成している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・日誌を活用し、振り返りの中で当日の様子と次回の配慮点を記載し、参加できなかった職員も情報を共有できるようにしている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係 機 関 や 保 護 者	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・必要に応じて伊勢原市役所と情報共有をしながら支援を行っている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			

と の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		・保護者を通じて医師の見解を伺いながら支援を行っている。	
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・保育所や認定こども園、幼稚園と併行通園しているお子さんは主に保育所等訪問支援事業が情報共有の役割を担っている。そのため、保育所等訪問支援事業と連携を取りながら行っている。 ・小学校や児童発達支援センターに移行する際は必要に応じて情報共有を図っている。	
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・市の教育センターと連携をとり、情報共有を図っている。 ・今年度は小学校からの申し出があり、小学校と情報共有を図った。	
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	・利用児の多くが地域の幼稚園、保育園等に併行通園し、当園には週1回等の少ない頻度で通っている現状があるため実施していない。	・園としては今後も現状維持の方向で考えている。
	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・今年度から全グループ、分離登園に利用形態を変えたため、保護者同伴時と比べると保護者の方とお子さんの様子を共有する機会が減っている。当日のお子さんの様子については、降園時のお子さんの安全面を考慮し、体調面など必要な情報を精査してお伝えしている。お子さんの状態や課題点については、1~2ヶ月に1回の面談の機会を設け、別室のミラーから様子を観ながら保護者の方と共有している。		

	③①	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		・毎年保護者向け講演会や懇談会等を企画し実施している。今年度はコロナ禍の為、中止とした。	
保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・1～2ヶ月に1回程度、定期的に面談の機会を設けている。その他、必要に応じて、電話連絡や面談の機会を設けている。	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・例年、グループごとに保護者懇談会を実施しているが、今年度はコロナ禍であることから、実施を自粛している。	・新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、その都度検討していく。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・保護者からの相談内容や申し入れについて職員間で情報共有を図っている。その中で、必要に応じて園全体で共有、検討し、迅速に対応している。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・グループごとに年間予定表を配付した。 ・今年度から分離登園になったことを踏まえ、保護者の方が活動のイメージが持てるように、毎月配付している「月のよてい」に活動内容やねらいを記載し、工夫している。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業	○		・年に1回、市や市内の福祉事業所と協力し、地域住民に向けた「ふれ	

		運営を図っている			あい福祉まつり」を実施している。今年度はコロナ禍であるため、中止となった。	
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・保護者への周知は、利用初回に「通園についてのお願い」をお渡ししたり、口頭で説明をしている。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・毎年、年に1回、当日登園している方も一緒に避難訓練を実施している。また、毎月配付している「月のよてい」に実施した内容等を記載し、利用されている方へ報告している。今年度はコロナ禍のため、職員のみで実施し、その内容を「月のよてい」に記載した。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・必要に応じて保護者と対応について共有している。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・保護者から必要な情報を確認し、医師の指示書の基に対応している。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・月1回、虐待防止セルフチェックリストを用いて確認している。	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・身体拘束を行うことはないが、子どもにとって必要な対応については、保護者と確認してすすめている。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。